

最終試験結果の要旨	
学位申請者 氏名	Tran Quoc Nhan
審査委員	主査 鹿児島大学 教授 豊 智行
	副査 鹿児島大学 准教授 李 哉沄
	副査 佐賀大学 准教授 辻 一成
	副査 佐賀大学 教授 稲岡 司
	副査 鹿児島大学 准教授 坂井 教郎
審査協力者	
実施年月日	平成 31 年 1 月 18 日
試験方法 (該当のものを○で囲むこと。)	
<input checked="" type="radio"/> 口答・筆答	
<p>主査および副査5名は、平成31年1月18日の公開審査会において、学位申請者に対して学位論文についての説明を求め、その内容および関連事項について試問を行った。具体的には別紙のような質疑応答がなされ、いずれも満足できる回答を得ることができた。</p> <p>以上の結果から、審査委員会は、申請者が博士（農学）の学位を受けるに必要かつ十分な学力ならびに識見を有すると認めた。</p>	

学位申請者 氏名	Tran Quoc Nhan
<p>【質問 1】図 1.5 からベトナムとタイからの米の輸出価格の差は小さくなっているように読み取れるが、これはベトナムからの米の品質がタイの米に近づいたからなのか。</p> <p>【回答 1】ベトナムからの米の品質は向上したが、タイからの米とは品質においてまだ大きな差が存在する。</p> <p>【質問 2】メコンデルタ地帯での稲作農業の機械化の状況はどうであろうか。農家規模別分析において農業機械の減価償却費を考慮することは重要であろう。</p> <p>【回答 2】調査対象農家のほとんどは農業機械を所有しておらず、必要な場合は農業機械による作業サービスを外部から購入している状況である。</p> <p>【質問 3】小規模農家が粃を収穫前に販売する場合、仲買人が収穫費用を負担するので収穫前の販売価格は低くなるのではないか。</p> <p>【回答 3】農家が収穫前に粃を販売する場合であっても収穫費用は農家が負担している。</p> <p>【質問 4】分析結果によれば、約半分の契約が不履行となっている。農家と企業のどちらが契約を破るのか、またその割合はどうなっているのか。</p> <p>【回答 4】本研究では契約を履行と不履行に分類して分析をしたが、不履行において農家と企業側のどちらが契約を破棄したかについては調査において聞き取っていない。</p> <p>【質問 5】表 3.6 より農家世帯員 1 人当りの所得は農家規模により大きく異なる。農家規模別三グループ間のこの差の原因は何か。</p> <p>【回答 5】分析結果によれば三グループ間で農家世帯員数に有意な差はない。しかしながら米販売からの所得に大きな差があるために、このような差が生じている。</p> <p>【質問 6】小規模農家に関する本論文での提案の実現可能性はどうか。小規模農家は提案された行動をとることができるのか、小規模農家は貯蔵施設を設置することは可能であろうか。</p> <p>【回答 6】提案は研究による解明点に基づいている。三グループ間の 1kg 当たり生産費用に差はないが、大規模グループの 1kg 当たり価格は他の二グループと比べて有意に高いことが明らかになった。結局、小規模農家の稲作からの所得を増加させるためには、小規模農家の販売価格が上がらなければならない。その解決</p>	

策が小規模農家群の初購入者との交渉力を高めることであるが、そのためには小規模農家は農協といった農家グループに参加すべきである。農協は小規模農家にとって重要な役割を果たすと思うが、その事業も成果が得られるように改善していかなければならない。分析結果によれば貯蔵施設の所有と高価格には関係があり、貯蔵により収穫最盛期の供給過剰による価格下落に直面することを回避することができる。小規模農家が自宅に簡易な貯蔵施設を設置することは、そのことによる現金の早急な必要性が生じる問題を克服する政府からの支援があれば可能と考える。

【質問 7】価格水準の要因に関する重回帰分析での説明変数の選択はどうなっているか。

【回答 7】農家が貯蔵施設の所有、収穫後の販売、品種、農家庭先での販売といった要素を制御しながらも農家規模は価格にどのように影響するのかを分析したかったので、これらの変数を選択した。

【質問 8】書面契約、直接契約、種子の提供、農場訪問は契約の履行に効果があるとしているが、これら要素の契約履行への重要度はどうであろうか。

【回答 8】分析結果からはどの要素が契約履行に何パーセントほど寄与するかということまではわからない。このことの解明には別の分析手法の適用が必要と考える。

【質問 9】小規模農家は利益を得ているが、長期的には生計を維持管理することは難しいのはなぜか。

【回答 9】法律により小規模農家は稲作を行っている農地で他の作物を栽培することは禁止されている。加えて稲作に従事する農民が農外で就職することは容易ではない。したがって小規模農家は利益が低くても稲作を続けざるを得ず、米からの低所得に苦しまなければならないということである。

【質問 10】表 4.1 で市場価格とあるが、市場価格といえる公的な価格は存在するのか。

【回答 10】そのような公的な価格は存在しない。メコンデルタの農家段階での初市場は競争状態にあり、供給側も需要側も十分な情報を有する中で取引が行われている。そのような中、需要と供給によって変動する相場に影響されながら農家が販売した価格を市場価格としている。